



心肺蘇生法について研修

今年も、プールでの学習の時期が近づいてきました。プール学習開始の前には、消防署から講師を招いて心肺蘇生の研修を実施しています。今年は運動会直後の5月28日（水）、宇城広域連合南消防署三角分署から、5名の署員の方々に来ていただき、講習を受けました。救急車が現場に到達するまで約10分かかるとのことですですが、1分経過するごとに救命率が10%落ちてしまうそうです。現場に居合わせた人間が協力して、救急車が到着するまでの時間、AEDの使用や胸骨圧迫（「強く、早く、絶え間なく」が合い言葉）により、要救助者の命をつながなければなりません。最後に、救急車到着までの10分間をシミュレーションしましたが、とても長く感じた10分間でした。でも、いざというときは、ためらわずに救助活動に当たらなければ、と再認識した時間でした。定期的にこのような研修を受けることの重要性を感じました。9月には、5年生も保健の学習の一環で指導をいただくことになっています。



前途洋々

水難避難訓練を実施～子供たちを水の災害から守るために～

5月27日（火）に、本年度の水難避難訓練を実施しました。これは、豪雨による川や排水溝等の氾濫を想定してのものです。暴風雨、洪水等の危険について理解し、避難の方法を知るとともに、避難体制の強化を図ることが目的です。実際には保護者への引き渡しを行うのですが、そこに至るまでの動きを確認しながら行いました。本格的な梅雨を前に、再度ご自宅周辺の危険箇所についてもご確認いただきますようお願いいたします。

さて、警察庁生活安全局生活企画課から昨年度出された「令和6年度夏期における水難の概況」という資料を見てみました。ちなみに、「夏期」とは7~8月の2ヶ月間を指します。昨年度夏期の水難の発生状況は下記のとおりです。

○ 全国の発生状況

- ・ 発生件数 488件（前年対比 +35件）
- ・ 水難者 601人（前年対比 +33人）
うち死者・行方不明者 242人（前年対比 +6人）

このうち、中学生以下

- ・ 発生件数 68件（前年対比 +19件）
- ・ 水難者 105人（前年対比 -1人）
うち死者・行方不明者 18人（前年対比 +2人）



地区ごとに並び直して移動

死者・行方不明者242人について、発生した場所別に見ると、海が117人、河川が88人となっていますが、中学生以下の18人に限定して見てみると、河川が11人、海が5人となっています。また、行為別に見ると、最も多いのは「水遊び（12人）」となっています。本校区内にも大小の河川があります。浅い川であっても状況次第では簡単に人の命を奪います。中学生以下の死亡・行方不明発生場所が「河川」というのは大変気になります。上記「水難の概況」では、防止対策として、当たり前のことがですが、「子供の水難防止のため、子供一人では水遊び等をさせず、幼児や泳げない学童等には、必ずライフジャケットを着用させ、その者を保護する責任のある者が付き添うなどして、目を離さないようにする」とあります。

よく言われるのが、「ちょっと目を離した隙におぼれていた」などというもの。「これくらいなら大丈夫だろう」という考えは通用しないということでしょう。